

単元名

平和の実現に向けて

#江田島市 #広島市 #長崎市 #平和学習 #歴史



単元の概要

今年度の本校の2学年の修学旅行先は長崎県であり、その中で長崎市の平和公園や原爆資料館を訪れることになった。その際、事前学習として、長崎市内の中学校とリモート交流をしたり、広島市の原爆資料館で平和学習したりすることで、より深く被爆実態を学習できたり、平和の実現に向けた行動を考えていたりすることができ、課題解決力や実行力を高めていくことができた。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○平和の実現に向けて、自分達には何ができるだろう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○平和な社会を実現するためには、何が必要だろう。

【単元の目標】

○広島市と長崎市の被爆実態の共通点や相違点を知り、平和の実現に向けた行動について考える。

活動の様子 (全9時間)

【情報収集(6時間)】

- 広島市と長崎市の原爆投下時の状況に関する基本的事項を、インターネット等を使って整理する。
- 長崎市立山里中学校とのオンライン交流にて、長崎市の被爆者の方の体験を学び、予備知識をもって長崎原爆資料館を訪れる。
- 長崎市の訪問に向けて、広島平和記念資料館を見学し、被爆者の実態や思いについて学習する。
- 道徳科で佐々木貞子さんの人生について学習し、平和の実現に向けた人々の行動について知る。

【課題設定(1時間)】

- 長崎市の平和公園や原爆資料館見学に向けて、自分達にできることを考える。
- グループでプロジェクトを企画するとともに、活動計画と立てる。

【実行(1時間)】

- 長崎市平和公園で平和集会をし、平和実現への思いの発表や、制作した千羽鶴を奉納する。

【振り返り(1時間)】

○修学旅行のしおりに平和学習の振り返りを記入する。



長崎市平和公園での千羽鶴奉納



長崎市平和公園での平和集会



長崎市立山里中学校とのオンライン交流

生徒の変容

- 平和の実現に向けて、表面的な言葉だけでなく実際に生徒が行動することを目指し、生徒の役割分担を明確にすることで、生徒が責任をもって、活動を遂行できた。
- 振り返りには、千羽鶴を折りきって実際に現地に行って奉納し、広島と長崎のつながりを感じることができたといった記述がみられた。

連携機関・団体・人物

【オンライン交流】長崎市立山里中学校 第2学年

成果○と課題●

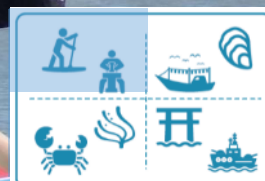
- 長崎市の中学校の中で最も被爆地に近い山里中学校とオンライン交流できたことで、長崎市の平和学習を効果的に行うことができた。
- 長崎原爆資料館に見学に行く前に、広島平和記念資料館を見学したことで、被爆実態や被爆者の体験をより深く学ぶことができ、平和の実現の必要性をより強く感じさせることができた。
- 千羽鶴の制作を、役割分担をさせ計画的に行ったことで、生徒に使命感や達成感を感じさせることができた。
- 平和の実現に向けた自分達の行動を考えさせる際、「折り紙で鶴を折る」という意見に終始してしまったが、「自分達だからできることは何か」「江田島らしさ、広島らしさを出せないか」、「自分達だけでなく全校で取り組めることはないか」など生徒の意見を深掘りできる時間があればよかった。早めに学習を進めたり、生徒に平和の実現に向けた行動を考えさせる時間をしっかりとったりして、より気持ちが込められた、意味のある行動を実行させればよかった。

単元名

地域を語る 実践例Ⅰ：マリンアクティビティの魅力発信



#SUP #カヌー #マリンアクティビティ体験 #実体験に基づく江田島の魅力



単元の概要

江田島市が消滅可能性自治体になっている現在、若い世代の活躍が期待されている。そこで中学校の3年間を通して、「1学年：地域を語る」「2学年：地域を再発見」「3学年：地域に貢献」をテーマに活動を行い、生徒が自身のキャリアや地域とのかかわり方を見出すことを目的とした学習を設定した。また、学習を通して課題解決力や実行力、先を見通す力や表現力を高めていく。

【本質的な問い】(何度も問い直され、答えが更新され続ける「問い」)

○地域(江田島)と自分はどのように関わっていくべきだろうか。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○江田島の魅力とはなにか。

【単元の目標】

○インターネットには載っていない江田島の良いところ・課題を、実体験を通して知ること、ふるさと江田島に誇りをもって語るができる。

活動の様子(全45時間)

【情報の整理・発表(7時間)】

- 教員がそれぞれのふるさとの魅力を語る様子を見て、「地域を語る」とはどのようなものかイメージをもつ。
- 小学校での学習を含めたこれまで学んだり、体験したりしたことをもとに、この地点での自分の知っている「江田島の魅力」をクラス内で発表する。



末岡真樹さんとのインタビューの様子

【課題設定(2時間)】

- 江田島の魅力を発信するにあたって、「目的」「対象」「発信活動による成果・期待」を視点として、活動のストーリーを考える。
- ストーリーを基にして、いつ」「何を」「何のために」活動を進めていくのか、計画をたてる。



ゲストティーチャーの講話の様子

【情報の収集・体験活動(10時間)】

- 第一術科学校を見、江田島の歴史という視点で情報収集する。
- 江田島のことを島外へ発信している方々をゲストティーチャーに招待、江田島の魅力の発信するために、どのような活動を行い、またどんな思いを込めてその活動をしているのか講話を聞く。
- マリンアクティビティの体験をする。海上から見た江田島の魅力を体感する。

【情報の収集・整理・分析(10時間)】

- 生徒自身がアポイントメントを取って事業所や店舗に訪問し、取材・インタビューや体験活動を行い、情報収集する。

【まとめ・創造・表現(15時間)】

- 収集した情報をもとにして、ポスター・チラシ・リーフレットを作成し、それぞれのことから魅力を対象者に伝える活動をする。
- 作成物にQRコードを添付、または直接アンケートを行い、自分たちの活動を客観的に評価してもらう。
- 成果報告という形で、これまでの活動を客観的な評価に基づいて発表を行う。

【振り返り(1時間)】

- 1年間の総合的な学習の時間の学習を通し、自分自身に身に付いた力を振り返ってレポートにまとめる。

生徒の変容

- 生徒主体で活動を行えることを目指し、取材等のアポイントメントの電話を生徒に行かせた結果、取材の準備やその後の情報の整理などの計画を立ててから活動する姿が見られた。
- 情報収集の際にインターネットで調べるだけにならないように、「インターネットには載っていないこと」や「体験したこと」を発表の観点にしたところ、取材やミカン狩りなど実際に体験活動を計画、実行した班も見られた。
- 振り返りには、「人見知りで挨拶をする機会がなかったが、大人との関わりが増えて、積極的に挨拶をするようになった」といった記述があった。また、「グループで話し合う際、様々な見方や考え方を伝え合うことで、話し合いをより深めることができた」という記述もあった。

連携機関・団体・人物

【ゲストティーチャー】江田島市役所産業部交流観光課 横山元哉さん、荘司淳之助さん
瀬戸内いとなみ舎合同会社 代表 峰尾亮平さん
マルサ・やながわ水産有限会社 代表 柳川政憲さん

【マリンアクティビティ体験】えたじま SUP、一般社団法人江田島カヌークラブ

【インタビュー】エタジマシーサポート 末岡真樹さん
大柿自然環境体験学習交流館 西原 直久さん

【教育参考館見学】海上自衛隊第1術科学校

成果○と課題●

- アポイントメントを取る電話を生徒に行かせたため、2学年がキャリアスタートウイークのときに行う電話のかけ方を先行して学習することができた。
- インターネットには載っていないことや実体験に基づいた江田島の魅力でないと説得力に欠けてしまうと投げかけたことで、ゲストティーチャーとの講話や取材・インタビューの際に積極的に質問をする姿が多く見られた。
- 生徒の主体性を高めるため電話を生徒にかけさせたが、「先生方と連携を行ってから、生徒に電話させるべきなのではないか」という意見を頂いた。事前に最低限の連携・説明をしておくべきだった。

中学校理科：生命の連続性『有性生殖』



#身近な海辺の生き物 #有性生殖 #観察、実験 #生命尊重



単元の概要

江田島市の身近な海辺の生き物を活用した授業である。江田島市では大柿町海辺の生き物調査団やさとうみ科学館による早朝観察会の実践を授業に生かしている。この授業では、身近な海辺の生き物の受精による、新しい命の誕生の瞬間を観察する。授業後は、観察を継続すると共に、受精卵を元の海辺に返す。こうした命のつながりを大切にするこゝで生命尊重の精神も育む授業内容とする。

【本質的な問い】(何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

○身近な自然の生物の中から命のつながりを見つけてみよう。

【単元を貫く問い】(単元を通して考え深めていく「問い」)

○生物はどのように子孫を残し、命をつなげているのだろうか。

【単元の目標】

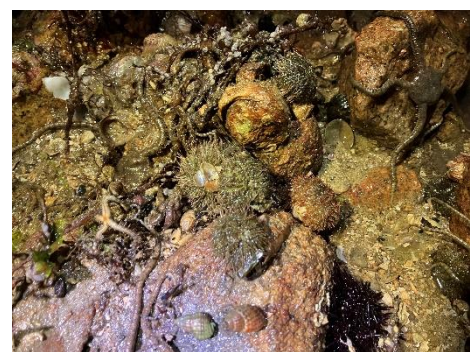
- 中学校理科の目標【生物の殖え方】：生物の殖え方を観察し、有性生殖の特徴を見出して理解するとともに、生物が増えていくときに親の形質が子に伝わることを見出して理解する。
- 江田島市の身近な自然の豊かさを感じ、生命の誕生の尊さ(畏敬の念)や、命のつながりのすばらしさを感じる。

【早朝観察、バフンウニの採取(1時間)】

- 江田島市の特定の海岸にバフンウニが多数生息している。大潮の干潮は早朝の4~5時頃になるため、潮見表を参考に海岸でバフンウニを採取する。
- 12月から3月にかけて早朝の干潮時刻に最も潮が引く。バフンウニは、この時期に精子と卵をつくり、子孫を残す。
- さとうみ科学館の職員に採取場所や採取方法を相談し、採取可の場所かを確認して、職員と一緒に複数で採取に行くようにする。(安全第一)

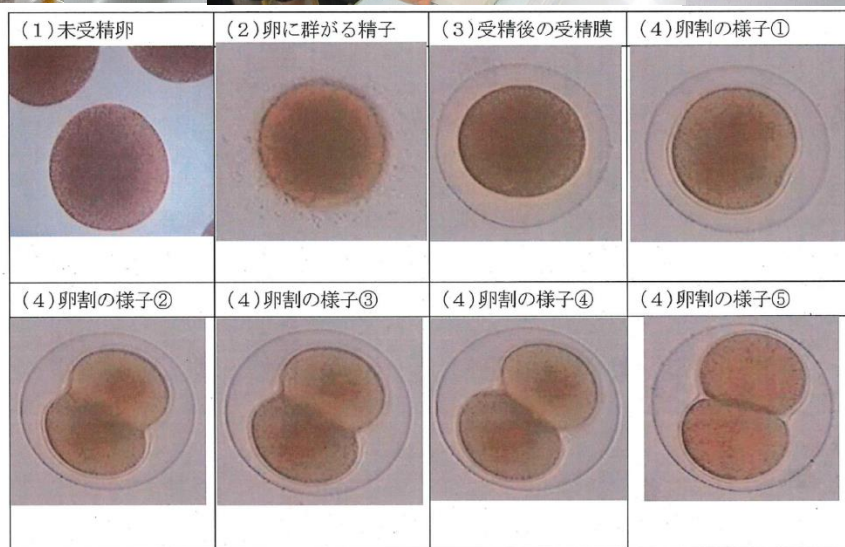
【観察、実験前の準備】

- 事前に採卵・採精を行う。授業の1時間前・2時間前・3時間前等時間を変えて、別々の三角フラスコ等で受精させた受精卵を準備しておく。



【授業の実際(1時間)】

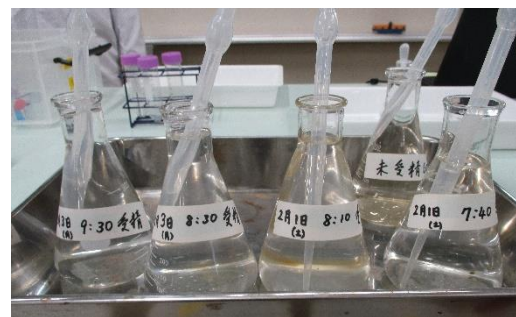
- ウニの口器をとり、精子と卵を採取する。
- ホールスライドガラスに未受精卵をとり、観察する。その後、精子を入れて、カバーガラスをかけた後受精のようすを観察する。
- 各自の顕微鏡で受精卵の様子を観察する。卵の周りで動く精子の様子を観察する。
- 約90分前に受精した受精卵の卵割を観察する。
- さらに、2日前に受精させた受精卵の様子を観察する。
- ◎授業後、各班の主な受精卵を1カ所に集め、ウニを採取した海辺に返す。(いくつかのウニの命をいただき、たくさんの命を誕生させて自然に返す。)



(3)から(4)が始まるまで約90分程度、(4)の①から⑤までは、約2~3分程度

【生徒の振り返りから】

- 授業後の振り返りの記述の中で、「実際に受精の様子を観察することができて感動した。」「この経験を大切にしていきたい。」「成長する様子を観察し続けて、エサなどが変わるのかも調べてみたい。」などがあつた。
- 教科書やクロームブックによる映像を通した学習では得られない自然の豊かさへの畏敬の念を実感させることができた。



連携機関・団体・人物

【ウニの採取】大柿中学校 八川 慎一 校長先生

さとうみ科学館 館長 西原 直久さん他、職員の皆様

【ウニの研究】広島大学大学院総合生命科学研究科 教授 山本 卓さん、坂本 尚昭さん

成果○と課題●

- 身近な海岸で採取できるバフンウニを使って、生徒自ら実際に精子と卵を取り出し、生命の誕生である受精の観察をすることができた。
- 予め時間差をつけた受精卵を準備することで、1コマの授業の中で効率よく、受精卵の卵割を観察させることができた。
- 本実践を通して、受精の仕組みを知ると共に、生命誕生の尊さを実感させることができた。また、身近な江田島市の自然の豊かさへの畏敬の念を感じさせることができた。
- バフンウニの採取は、冬場の早朝でないとなかなか難しいため、安全面と健康面に気を付ける必要がある。さとうみ科学館の観察会を兼ねて生徒や保護者も含めた参加型で行うと教育効果が高くなる。
- 2時間続けての授業にすると、スケッチをするなどより学びを深めることができた。